ビブリア

No. 22

発行　いわき市平上荒川字長尾30
　　福島工業高等専門学校
編集　図　書　委　員　会
　　昭和51年7月2日

福島高専 図書館報

五年生から後輩に

技術者の夢・技術者の心

語り伝える『私の読書遍歴』

年度の初めは、先生方の手になる読書案内を載せるのが、ビブリアの慣例になっているが、今年度は趣向を変えて、五年生の手になる読書案内を載せることにした。

下級生とくに新入生にとっては、五年生はコワイ兄貴である。ときには先生のお小言よりもキツイものが飛んでくる。一少なくとも、僕の経験した旧制中学校時代（それは高専と同じく5年制であった）は、そうであった。だが、よくつき合ってみると、ヒゲ面の下に、夢多き、一途（いちづ）の心がひそんでいる。後輩が先輩に学ぶべきものは、その青年らしいひたむきな探求心であろう。

読者諸君は、ここに掲載した4編の原稿を通して、4人の若者の心の軌跡をたどることができよう。ときにはモノに憑(つ)かれたように読みふけり,ときには冷静に自己の歩んできた道をふりかえる。その振幅が大きければ大きいほど、その人間の成長はいちぢるしい。読書を媒介とした人生との出会い、それは自分自身の発見であり、創造でもあるのだ。若者は若者らしく、未知の世界に向って、知的冒険を試みようではないか。

（芋　川　平　一）

『サハラに賭けた青春』物語

5M　佐川英吉

パート1

「サハラに賭けた青春」、「サハラに死す」を読んでみた。気持ちはわかるけれど、無茶が過ぎるのだ。「サハラに死す」の方は最後に死ぬのがわかっているし、もろに本人の生の文体なので、気色が悪くて中途までしか読んでいない。ラクダが過労で死んでしまって絶望に打ちのめされたのに、それに懲りずに都市で金をためて、今度はもっと慎重に準備をして前回の旅でラクダが死んだ地点まで行ったところまで読んだのだ。奴は飽くまで、昔ながらにラクダの背に乗って横断するつもりなのだ。サハラを体で感じるためだと。僕は奴の行動を批評する気はないが、ケッ、言わせてもらおうじゃないの。1頭のラクダが唯一の命綱じゃないか。6000kmも、ケッ、砂漠を、ケッ、命あっての物種じゃねえかよ。

僕ならシトローエン2CV（千夏創刊号　参照）を使うよ。僕は今のこの世界が好きだし、この20世紀文明社会の中で生活している以上、またそれが人間の性である以上、入手できる全ての「文明の利器」の最も良い部分（コンテンポラリーエイジの仲間たち）を自分の冴えた頭で判断して、活用するのは素晴しいことなんだと思うよ。サソリのいる砂上で寝るよりは、2CVの中の方が安全だし、この点については異論もあるだろう。上温湯君—奴の名前だ。上温湯隆はこの、「安全」を嫌って、危険な賭に身を張ったのだから。

しかし危険な賭とは、その危険の中に潜む幾許かの安全への形振（なりふり）構ぬ執着じゃないだろうか。賢明な読書諸君は、もうおわかりだと思うが（これは

白土三平の口癖だ），問題なのは適切な安全度をどのポイント（クリティカル　ポイント　オブ　リーズナブル　デインジャー）に設定するかであり，加えてそれは個人の趣味により大きく変わるということなのだ奴はラクダでなけりゃだめだ，と思ったが，僕には２ＣＶが最も適当だと思える。少し違う。奴には死ぬ覚悟ができていた。僕はそんな気持になれそうにない。若干違う。奴はサハラ砂漠（ヌアクショットーポートスーダン間。暇な人は地図を見ればわかると思うが，6000kmある）を横断中，渇死した。僕は奴の死後に出版された手記を読んだ。両者の間には，天と地ほどの距離があるに違いない。そうなのだ。奴は奴で，僕は僕なのだ。上温湯隆なんて知るもんかてえんだ），水だって，より多量に携帯できるんだ。奴は，その弱点を原住民の世話になることで補っている。確かにそれは，彼らにとって少し迷惑かも知れないけど，人間と人間との絆は強くなるに違いない。２ＣＶで行けば，その点では少し意義が薄れるだろうが，それは人々が相互扶助をしなくとも生きてゆくことができるシステムができた瞬間から効力を発する不可避のエネルギーなのだ。しかし心配することはない。システムのメインスイッチは，まだ我々の手中にあるのだ。その気になれば，いつでもスイッチを切れるのである。サハラに旅立った奴のようにだ。

パート　2

君が防共挺身隊の一員，又はそのシンパなら510.610にしろと言うだろう。510の東部アフリカでオーバーオールウィンを果たした戦績は確かに誉めるべきだがあれはむしろＥＸ－510というべき代物で，ノーマルな510との共通点はベアシャーシ位のものだ（と思える）し，第一，サハラには水がないのですよ，と言い訳をする他はない。

君が病院の御曹子で，気前のいい男なら，俺の911を貸してやるぜ，と嬉しいことを言うだろうか。しかし僕は大いに悩んだ末に，あのパワーが砂漠では命取りになると諦めるだろう。そして帰国したら冒険物語を本に書いて，その印税で自分の911を買うぞと決心を新たにするに違いない。その時は，旧型911Ｅ，黄色，スライディングルーフ，純正アロイホイールのスペックでだ。

君がＣ／Ｇをなんと66冊，持っているんだぞ，なんて自慢している男Ｑなら，そりゃ，先輩，ＶＷが好適ですよ，それもデリバリーバンでなくてはいけない、

望み得るならばアンビュランス　モデルが最高ですね，とゆっくりと，噛みしめるように言うだろう。Ｑは自分を，若いが優れた批評家だと思っているのだった。実際，その通りなのだが。Ｑはそう言うと，その後の十数分間，小林彰太郎氏の影響を受けたとすぐにわかる口調で，少年らしい大袈裟な引用を引っぱり出したりして，自論の正当さを証明しようとするだろう。

それを頷きながら聞いていると，Ｃ／Ｇを24冊持っているというＭｉｋｅという渾名の太った男がやって来た。「ＢＭＷの他にありません。」としたり顔で言う。マスタングだと言わぬだけ増しだが，なんという無知な男だろうと思ったね，僕は。しかし，その考えはすぐ打ち消された。Ｍｉｋｅの顔にゴグルの跡がくっきりと残っていたからだ。Ｍｉｋｅの言うＣ／ＧはＣｙｃｌｅ　Ｇｕｉｄｅのことだったのだ。それならＢＭＷで正解だ。モーターサイクルで砂漠を走破するのには，密閉された後輪ドライブ機構と極く高精度で工作された従順な空冷エンジンが絶対必要だ。この種のモデルは２種しかない。ＢＭＷのフラットツイン。

モトグッチのVツイン。ジャーマン　リアリズムとイタリアン　オプティミズム。好みにもよるが，サハラでは，やはりドイツ物の方が信用に足るだろう。しかし僕は，バイクでサハラに挑むなんて御免だから，Ｍｉｋｅには引っ込んでもらって，Ｑの話だが，彼の選択は実に正しい。ＶＷはほとんど全ての要求に平均点以上を示すだろう。しかし２ＣＶを僕は選ぶ。なぜなら，僕は２ＣＶに尊敬に近い感情を持っているからだ。それは愛情といってもよいかもしれない。だからサハラに対する基本的な条件ーシンプルな構造ーをを満たしている以上，客観的にはベストな選択ではないにせよ，死の危険に怯える孤独なドライバーには，２ＣＶが最良の分身なんだ。

『私の読んだ本』

5E　四家　厳

新入生に対する読書案内というテーマであるので，まあなんとか上のように題して私の読書に対する考え方とか今まで読んだ本の中で印象に残ったものなどを述べてみたい。

新入生諸君は運動クラブにはいって毎日練習に励んでいることと思うが，それは非常にいいことである。しかし，（この反対だという人もいるだろうが）私はあえてこういいたい。「学生時代に授業とクラブだけやっていたのではダメだ」と。女性諸君を対象から外して申しわけないが，男とは何ぞやというと私は「力」と「心」（あるいは「根性」と「人間性」と言い替えてもいい）だと考えている。事実，どちらを欠いても男とは見なせないだろう。「力」はまぎれもなくクラブ活動によって養えるが，「心」はその他で養わなければならない。学校の授業は「心」とは全く無関係のものなので，ここから「心」を得られないのは明らかである。前に「学生時代に授業とクラブだけやっていたのではだめだ」といったゆえんがここにある。

そこで，「心」を手軽に(?)養える手段として私は読書を勧めたい。作者のそれまでの経験，人生観等がわずかあれだけの量の中に圧縮されているのだから，こんな目的にはもってこいといえる。ここまでくると，本を読むには時間がなくて，としり込みする人もいるだろうが，こんな人は本を家に持ち帰らず学校内で読めばどうだろう。そうすればそれほど自分の時間を侵されないですむ。昼休みや休講の時間などよく考えてみると無駄に使っていることが割合多いのではないだろうか。

ここでいう読書あるいは本とは，当然のように小説が最も適している。私の場合はさらに日本の小説を好む。（外国の作品が劣っているといっているのでは決してない。日本以外すべて外国であるので，人間の絶対数から考えても優れた作品は当然多いだろう）なぜ私が外国の作品を好まないかというと，想像がつくとおり，日本語で書かれたものでないからである。よって我々が手にとって読めるものは，原書で読める人は別として，翻訳されたものである。だから訳者が違えば表現が違ってくるという非常にばかげたことが起こる。時には主人公の名まで違っていたりする。発音のとり方だけで本質的なものではないが，とにかく気分のいいものでないことは事実だ。それにもうひとつ私が外国作品を好まないのは，書かれていることがピンとこないからである。まるで物理の問題かカントの著書みたいに何度か読み返してやっとわかる，わかったような気になるというのが割合多いからである。これは民族，風土，ものの考え方などが違っているからであり当然といえば当然である。そしてこのことが外国作品の外国作品たるゆえんである。が，私が思うに相手はしょせん小説であって，物理や哲学といっしょにされてはかなわないということである。だから私の場合は，どうせ読むなら読んでいて事情がすぐ理解できる日本の作品にひかれてしまう。それにどうしてどうして優れた作品も多いのだから。

さて，読書をする上で，片っぱしから手あたりしだいに読むいわゆる濫読という方法がある。たしかにこれもひとつの方法であるが，できるならば系統的に読むことを勧める。そして目標あるいは計画みたいなものを持って読むといいだろう。その具体的な方法のひとつは，私もそうなのだが，どの作家でもいいからとにかく同じ作家の作品をできるだけ多く読むということである。そうすればその作家が，小説というものを通して何をいいたいのかだんだんわかってくるからだ。

それからこれは経験上感じることだが，読んだならばその作品についてある程度のこと（主人公の名前とあらすじ，それに自分なりの感想）は覚えておくようにすること。何もこんなことのために読むのではないが，読んだことはあるが中味を忘れたでは読んだ「かい」がないというものだ。それには２度読むという方法が非常に有効である。そういえばずっと前に読んだことがあるというものを選んで読んでみるといい。その当時の感動を甦らせてくれて，それでいて新鮮なものとして感じられる。このように２度読んだものは忘れろといっても忘れられないくらい記憶に残るものだ。

最後に，私が今までに読んだことのある本の中で印象に残っているものの感想などを述べてみたい。

○井上靖　「あした来る人」「満ちて来る潮」

良くいえばカラッとしていて全体の長さを忘れさせてくれる作品。悪くいえば中味のない読んでいて心に迫ってくるものがない作品。この人の作品は一般に筋

がおもしろい。この作品から何かを得ようとしないで小説の中にもおもしろいものもあるということを知ればそれでいいと思う。読書恐怖症の人に勧めたい本である。

○芥川龍之介　「地獄変」

本当に「恐ろしい」と感じた作品である。これを読み終えたのは夜もかなり更けたころで，恥かしい話だがその日の後の2，3日は夜トイレに行く度に思い出して気味悪く思ったほどだ。この人の作品を読むと，普通の作家の作品とどこか違うと感じる。自殺したという先入観があるからか，何かにひどく追いつめられているみたいなものが漠然と感じられる。まあしかし芥川賞ができるくらいだから優れた作品といっていいだろう。

○遠藤周作　「沈黙」

遠藤周作のあのいわゆるおもしろい小説とは全く別の，本当に読む価値のある作品である。遠藤氏がクリスチャンであることはよく知られているが，この作品も江戸時代の長崎における，キリスト教の布教のために日本に渡ってきたひとりの宣教師の物語である。結局は当時の日本の禁教の権力に屈するのであるが，信者のようす，幕府の宣教師に対する態度等をバックにこの宣教師がとうとう屈してしまうまでの苦悩が実にありありと描かれている。宗教とは何かという問にいくらかでも答えてくれる作品だと思う。

○夏目漱石　「こころ」

夏目漱石＝「猫」というイメージが強いが，こちらの方が私は「いい」と感じる。同じ恋愛ものでも前にあげた井上靖氏の作品とはかなり違う。うわついた感じでなく真剣そのものという感じである。漱石の作品の中でまだ「猫」しか読んでいないなら実にもったいない話である。ぜひ読んでみるといい。全然別の夏目漱石を発見できるだろう。

○石川達三　「青春の蹉跌」

井上靖氏の作品とは反対に，話の筋はそれほどおもしろく発展しないが読後感がズーンと手応えがある。題名の蹉跌とはつまずくことだが，主人公がそうなることを十分に予知し，かつ十分に自分を制御するにもかかわらず自分自身の弱さのためか女の魔性のためかやがて挫折してしまう。我々にひとつの警告を発している作品である。映画化されたものだが，映画を見た人も原作を読んでみるのもまたいいだろう。

私の読書遍歴

5C　八木沼和栄

私が読書と名の付いた行為を始めたのはいつだったろうか？　たぶん高専に入学してから後であると思う。

私はもともと本を読むことが、嫌いではなかったが好きでもなかった。なぜなら、小説の如き細かな字が整然と並んでいる紙面をじっと、微動だにせず読まなければならないということが非常にいやだったからである。昔は、読書というとすぐこのような姿勢を思い出したものだった。今考えてみれば実に愚かだと思い、苦笑せずにはいられない。

では、このような私が何故読書を始めたかというとそれには長い説明が必要である。

私は入学すると同時に入寮した。入寮してからの一、二週間は部屋回りと称して上級生の部屋を訪問させられた。その時驚いたのは上級生、特に四、五年生が多くの本を所有していたことだった。このような上級生から読書傾向などを聞かれたが、私はしどろもどろだった。中学校時代にはまったく本など読まなかったからである。この時程、私は「本を読むぞ！」と思ったことはない。しかし決意はしたものの人間とは弱い動物であるもので、何ら刺激がないと忘れてしまうものである。私は、この種の人間であり一年の頃はほんの数冊しか読まなかった。学年が進むにつれ私の周囲に読書家という程ではないが、私よりもはるかに本を読んでいる人間が現われてきた。そのような人間と付き合うようになると、私は再び自分が「みじめ」になったのを覚えている。そこで私は本格的（？）に本を読み始めた。本の種類などかまわず、手当たりしだいに読んだ。とにかく「数を多く」と思ったのである。

このように私は自分の周囲の人間によって読書というものに目を開かされたのである。普通の人のように本に興味を持って読み始めたのではなく、むしろ自分をだましだまし読み始めたのである。

今年で読書歴は四年になるが、これまで読んだ本の冊数は百冊余りで数えるに足らない。まだまだ読まなければならないと痛感している。私は先に述べたように最初はまったく分野など決めずに読んだが、今考えると徐々にではあるが自分の好きな、興味ある方向へと傾いているようである。これは当然のことであるかもしれないが、私はなぜか微笑せずにはいられない。一種の自己満足的笑いかもしれないが。

では、この四年間にどのような本を読んできたのだろうか。こういっても私は他人に公言する程の自慢で

きる本とか、ベストセラーとか、知名度の高い本はあまり、いやまったく読んでいない。そもそも私の本の買い方は書店に入って初めてこの本を買おうという、一種の衝動買い的買い方である。したがって予め本を買う予定は立てずに書店に入るのである。またベストセラーなども新聞紙上の広告に紹介されるが私は「この本が売れているのか」程度にしか興味を持たない。だから、書店で気に入った本と新聞広告での本が一致しない限り私はベストセラーを読まないことになる。

話が横道にそれたので元に戻そう。すでに述べた通り、一、二年生の時は特定の作家にとらわれずにいろいろな方面の本を読んだ。日本のはもちろんのこと海外のものも読んだし、その中には国語の教科書に掲載されていた源氏物語や彌人日記等も含まれている。しかし三年、そして四年になると大部範囲が狭くなってきたようだ。さらに二年の時に読んでいた海外の小説も、その数は少なくなってきたように思う。海外の小説で読んだものといえば、図書館に収まっているクローニン全集くらいだろう。ところで三年の頃は、石川達三、五木寛之、特に石川達三に凝った。というのは彼の作品に描かれる主人公はある意味で、ダメ人間なのである。（ここでいうダメ人間とはコミカルな意味ではない。）だから彼の本を一冊読むと、別の本にはどんなタイプのダメ人間が登場するのかという興味が湧くのである。そのダメ人間と自分とを比較し、間にある相違を分析し羨んだり軽蔑したりするのである。私はこのように必ず主人公と自分とを比較、分析することにしているのである。そうすることにより自分を客観的に眺められると思うのである。この事は非常に重要な事だし、忘れてはならない事であると思う。三年も終りになる頃、これらの作家のものから一転して歴史小説を読み始めた。そもそも私は中学の頃から歴史、特に日本史の、それも奈良朝から江戸時代成立にかけての歴史に興味を持っているのである。四年の期末試験明けの休みには奈良の方へ旅行をし、飛鳥や平城京や高松塚古墳などの史跡を歩いて回ったりした。三年終了後の春休みには、四国へ旅行し源平の争乱の舞台であり、那須与一の扇落し、さらには義経の弓落しで有名である香川県の屋島や高知、松山、宇和島城などを見て回った。さらに広島の厳島神社、岡山城にまで足を伸ばしたりした。また私は歴史に関する月刊雑誌を購入し読んでもいる。ところで私が始めて読んだ歴史小説は「平将門」であった。今から一年半前の頃だと思う。この本を読んで作者である海音寺潮五郎の平将門に対する情愛や平安京政府の腐敗などに興味を抱いたものだった。歴史小説は結局、史上に残った事実に基づいてその作家が自分の意志で、実際に存在した人物、あるいは架空の人物を自由に操り得るものでありその結果であると思う。したがって必ずしも史実に忠実になる必要もなく、実際は史実通りでない小説が大多数であるが私はそれで良いと思う。なぜなら小説はフィクションであり歴史に関するものも小説の域を脱しない限りフィクションであるからである。「平将門」に始まった歴史小説が、「源義経」等に続き、現在に続いている。今私が読んでいるのが、山岡荘八作の「徳川家康」である。これは全部で二六巻あり、今二三巻を読んでいる。おもしろいものでこの小説を読み始めてから、事実と小説の違いを探ろうと思い史料等を読むようになった事である。この小説も後、三巻で完結する。それを一時も早く読み終え文字通り徳川家康を征服したい。

また歴史小説と平行して読んでいるのが、松本清張を中心とした推理小説である。なぜ松本清張を中心とした小説を読んでいるかというと私は松本清張の境遇に興味を持っているからである。松本清張は旧制の高等小学校しか正式に出ていない。すなわち学歴が高等小学校卒なのである。その彼が自分が興味を抱いている歴史、特に古代史に関して独学で知識を得、現在活躍していることに私は人間の執念に似たものを感じるのである。このような点から私は彼、松本清張の作品に興味があるのである。

以上に述べたのが私の読書遍歴である。今こうして書いていると、ある事に私は気付いた。それは、明治からの文豪といわれた人達の作品が非常に少ないいということである。つまり現代ものしか読んでいないということである。やはり日本人として生まれた以上、日本文学史上の名作などと謳われるものも読まなければならないだろう。

前にも述べたように、所有している本の数は百冊余りであり、明治よりの近代文学をも読まなければならない私の眼前には山と積まれた本があるのである。学生最後の年である今年はいろいろ忙がしいだろうが、時間の許すかぎり、歴史小説を、松本清張作品を、さらには近代文学を読んでいかなければならないと思う。

私の読書遍歴

5土　青　木　信　弥

この文を書くために、自分の本棚を見つめている。生来、自分は、人から本を借りて読むということが好きでないために、自分が読んだ本というのは、ほとんどが本棚とボール箱の中にある。だから必然的に図書館もあまり有効に利用していないわけです。（書くに足らないことですけれども、自分は、どんな本でも読むことによって何かを得ることができると思うために自分が読んだ本というものは自分のの手許に置いて、いつでも読み返してみたいときに読むので、人から借

りるとか、図書館から借りるとかいう一時的なものはあまり好きでないのです。）

ぼくの本棚は、読んだ順に入れて置くだけなので、本棚を一目見ただけで自分の読書の遍歴というものがわかります。自分で思うに自分の読書というのは、何事かに熱中しやすく、すぐ醒めてしまうのです。例えば吉川英治氏の本が6～7冊あるかと思えば、すぐ隣りには、石川達三氏の本がまた6～7冊あるという具合にです。（濫読というのには、変わりありませんが）本棚の一番隅にあるのが、映画で有名な「ある愛の詩」です。これは、高専の入学式の2～3日前に見た映画の興奮がきっかけで読んだものです。

それからは、古典的な恋愛小説を読み始めました。有名なシェークスピアの「ロミオとジュリエット」、ジイドの「狭き門」ツルゲネフの「初恋」etc.という具合にです。これは、当時、愛（男女間の）というものを読書によって、自分自身に納得がいくように定義してみたかったためではないかと思います。（今でも、この問題は、自分自身で納得することができません。しかし、男女間で用いられると美しい響きをもつ言葉ではないかとしか説明できません。）

時には、なにげなく買った本によってその作家に夢中になってしまったものもあります。例えば、それは五木寛之氏の「青春の門」であったり、立原正秋氏の「冬の旅」とか石川達三氏の「金環蝕」などがそうです。ほんとうに何気なく買った本であるのに、自分に教養を与えてくれたり、物事の考え方を柔軟にしてくれたりします。時には、自分の人生に示唆を与えてくれる場合だって少なくないと思います。このように、数多い書物の中から偶然に、自分に読む機会が与えられて、興味深い内容の本を読んでいる時に、ぼくは、もっとも読書の面白味を感じます。

また、時には、先輩や友人によって勧められた本を読むことによって、同様な傾向の本に夢中になってしまったことがありました。ぼくは、寮生活を送っていた時、先輩の室に遊びに行ってたまたま、読書の話になり、『4年ぐらいになったら、言葉の意味も理解できるようになるから、吉川英治の「三国志」を読んでみると面白いよ』と言われました。先輩の言葉どおりに、実行に移したことは、言うまでもありません。（運よく、三年生の終わり頃から講談社から吉川英治文庫が発行されました。また、3年生の国語の時間に、教わった四字熟語も、この本を読む時に、非常に役にたちました。）この本を、最初読む時に、今まで読んだ本の中では、最も長く（文庫本で8冊ですが）内容が、かなり異なっていたので面白くなかったら、途中で止めてしまおうと思っていましたが、いざ読み始めてみると面白くて、次回の配本が待ちきれない始末でした。それからと言うものは、吉川英治という作家と「三国志」というものに夢中になって、柴田錬三郎氏の「三国志，英雄ここにあり」とか、陳舜臣氏の「秘本三国志」を読んだりして、とうとう吉川英治氏の「三国志」は、2回も読み返す始末になってしまいました。この「三国志」を始めとして、吉川英治氏の本を読んでいくに従って、自分の器の大きさと時期の運によって、日本史上に名前を残した人々の本を読み始めました。ぼくは、わが国の歴史の中でも最も精彩に富んだ戦国という時代の人間の生き方に大きな魅力を感じたので、初めに、山岡荘八氏の「織田信長」を読んでみました。この本は、期待を裏切らないばかりか、戦国時代の武将に対する興味をますます湧かしてくれました。そして、吉川英治氏の「上杉謙信」「黒田如水」「新書太閤記」「高山右近」，司馬遼太郎氏の「国盗り物語」「新史太閤記」，新田次郎氏の「武田信玄」などを読むにしたがって、ぼくは、戦国武将のとりこになってしまいました。これが、ぼくの高専に入学してからの読書遍歴です。文学というものを桑原武夫氏の「文学入門」から引用しますと「文学が人生に必要だということは、決して自明のことではない。・・中略・・文学の面白さは、慰みもののそれとは異なり、人生的な面白さである。また作者が読者に迎合して面白がらせる受動的なものではなくしそれは低俗な文学である）、作者の誠実ないとなみによって生まれた作品中の人生を、読者がひとごとならず思うこと、つまりこれにインタレスト（アミューズではない）をもって能動的に協力することである。」「すぐれた文学と通俗文学との差異を考えてみると、前者が人生における新しい経験を形成しているのに対して、後者はそれを形成していない。したがって前者が、価値については生産的、精神については変革的、全般的性格は現実的といえるのに対して、後者は、それぞれ再生産的、温存的、観念的ということができる。」今まで書いてきたように、ぼくの読書というものは桑原武夫氏が、述べているものとは、かなり違った部分があります。例えば、面白さを受動的に受けとめていることなどです。（読書するという行為は能動的でありますが）

いままで、ぼくは、自分の読書遍歴を書いてきましたけれども、自分が読書について言えることは、初めのうちは、桑原武夫氏が述べているように堅苦しく考えないで、何か読書するきっかけをつくり、濫読することによって、その中から自分にあった本を見い出して読んでほしいと思います。

昭和48～50年度（3ヶ年）学生利用状況

NDC分類＼利用冊数＼年度	実数 48	実数 49	実数 50	% 48	% 49	% 50
000 総記	225	241	212	2.2	2.0	1.6
100 哲学	940	1,381	1,048	9.1	11.7	7.9
200 歴史・地理	257	351	260	2.5	3.0	2.0
300 社会科学	172	220	235	1.7	1.9	1.8
400 自然科学	3,488	3,247	2,902	33.6	27.6	21.9
500 工学・技術	3,250	4,823	6,707	31.3	41.0	50.6
600 産業	6	13	5	0.0	0.1	0.0
700 芸術・体育	194	147	160	1.9	1.2	1.2
800 語学	364	326	540	3.5	2.8	4.1
900 文学	1,471	1,026	1,186	14.2	8.7	8.9
合計	10,367	11,775	13,255	100	100	100

昭和50年度利用人員（科・学年別）

科＼学年	1	2	3	4	5	計	%
機械工学科	118	226	1,054	1,461	535	3,394	30.7
電気工学科	105	566	1,363	1,155	725	3,914	35.3
工業化学科	221	330	674	705	252	2,182	19.7
土木工学科	11	130	517	368	557	1,583	14.3
計	455	1,252	3.608	3,689	2.069	11,073	100
%	4.1	11.3	32.6	33.3	18.7	100	

昭和51年度図書委員（教官および学生）

倫哲・独語※芋川平一
電気工学科 松崎三重良
数学 鈴木澄夫
機械工学科 淡路英夫
電気工学科 佐藤寿雄
工業化学科 小磯武文
土木工学科 佐藤恭輔
事務部長 西田安雄
庶務課長 日下俊一
図書係長 加藤勇

M 1 坂本新一郎
M 2 佐藤幸助
M 3 鈴木栄一
M 4 遠藤富隆
M 5 飯村正幸
E 1 竹林義樹
E 2 渡辺富長
E 3 半内誠一
E 4 井上道広
E 5 大内博文

C 1 浜松多紀子
C 2 丹野伸一
C 3 志賀峰雄
C 4 斎藤多美子
C 5 深瀬伸男
土 1 追分孝志
土 2 草野真一
土 3 佐藤敏通
土 4 半谷一成
土 5 鈴木邦彦

※は印は主任

新着図書目録

＊印は図書館他は各教官の研究室に所有するものを分類別受入順に記載した。

総　記

日本図書館学講座
3．目録法と書誌情報　雄山閣＊
6．大学図書館　同＊

林左馬衛他
中国古典新書　茶経　明徳出版

赤塚　忠　同　易経　同

野村茂夫　同　書経　同

横田輝俊　同　詩経　同

外山軍治　同　金史　同

島田正郎　同　遼史　同

東洋文庫　281　漢文の世界 I　平凡社＊
282　詰むや詰まざるや　同＊
283　東アジア民族史 2　同＊

岩崎敏夫編
磐城岩代の伝説　第一法規＊

塙保己一　続群書類従　35～37　続群書類従完成会＊

朝日新聞縮刷版　50－11－12　朝日新聞社＊
同　51－1－2　同＊

全訳漢文大系30　文選(文章編)5　集英社

富山房編集部
漢文大系　15－16　富山房

世界の名著
続 2 プロティノス　ルピュリオス，プロクロス　中央公論社＊

日本写真年鑑 '76　昭和51年版
日本写真新聞社＊

朝日年鑑1976　1975 1月～12月㊖　朝日
30年世界史年表　人名録　朝日新聞社

河北年鑑　昭和51年版　河北新報社

哲　学

真継伸彦　朝日評伝選 6　親鸞　朝日新聞社＊

今中寛司他編
荻生徂徠全集 3　河出書房

日本思想大系20　寺社縁起　岩波書店
同　59　近世町人思想　同

宗教学辞典　東京大学出版会＊

中村　元　仏教語大辞典　上巻アーシ　東京書籍＊
同　下巻スーワ　同＊
同　別巻索引　同＊

ショーペンハウアー全集
1　根拠律の四つの根について視覚と色彩について　白水社＊
2～6 意志と表象としての世界正編 1－2　続編 1－2　同＊
8　自然における意志について　同＊
10－14　哲学小品集　1－5　同＊
別巻　同＊

キルケゴール
死にいたる病　現代の批判　同＊

ルカーチ　歴史と階級意識　同＊

ベクルソン
時間と自由　同＊

中村元選集
1　東洋人の思惟方法　春秋社＊
2　同　同＊
3　同　同＊
4　同　同＊
5　インド古代史　上　同＊
6　同　下　同＊
7　近代日本の批判的精神　同
8　日本宗教の近代性　同＊
9　東西文化の交流　同＊
10　インド思想の諸問題　同＊
11　ゴータマブック　同＊
12　原始仏教の成立　原始仏教 2　同＊
13　原始仏教の思想　上　同＊
14　同　下　同＊
15　原始仏教の生活倫理原始仏教 3　同＊
16　インドとギリシアの思想交流　同＊
17　古代思想　同＊
18　普遍思想　上　同＊

西村公朝　仏像の再発見　吉川弘文館

朱子学大系 1　朱子学入門　明徳出版＊
同　7　四書集注　上　同＊
同　8　同　下　同＊
同　9　近思録　同＊
同　13　日本の朱子学　下　同＊
同　14　高瀬雄新　朱子学者書簡集　同＊

谷山　充　論語発掘　明治書院

Mエリアーデ
シャーマニズム古代的エクスタシー技術　冬樹社＊

近代日本思想大系15　長谷川如是閑集　筑摩書房＊

アジア仏教史　中国篇 V　シルクロードの宗教　佼成出版社＊

三枝充悳他
講座仏教思想 7　文学論　芸術論　理想社＊

アラン　幸福論　白水社＊

ベルジャーエフ
孤独と愛と社会　同＊

現代人のための古典シリーズ　徳間書店＊
3　武道初心集　同＊
4　葉隠　同＊
5　武道秘伝書　同＊
6　菜根譚　同＊
8　養生訓　同＊
11　源信　往生要集　同＊
12　武家の家訓　同＊
13　日蓮　立正安国論　同＊
14　典座教訓　赴粥飯法　同＊
15　商家の家訓　同＊
19　貞観政要

歴　史

東洋経済読本シリーズ
21　世界史読本　東洋経済新報社＊
23　日本史読本　同＊

朝日新聞社編
新風土記　1～6　朝日新聞社＊

現代人のための古典シリーズ
17　勝海舟文言抄　徳間書店＊

朝日計伝選　朝日新聞社＊
1　高野長英
2　二宮尊徳
3　平将門
4　宇垣一成
7　徳川光圀
8　横井小楠

岩波講座日本歴史 6　中世 2　岩波書店
10　近世 2　同
15　近代 2　同
19　近代 6　同

カラー大和路の魅力　軍茶　飛鳥　淡交社＊
カラー京都の魅力　洛南　洛中　洛東　洛西　洛北　同＊

O．オア　アーベルの生涯　東京図書＊

岩波講座日本歴史 3　古代 3　岩波書店

図説日本の歴史
12　変動する幕政　集英社 ※
13　世界情勢と明治維新　同 ※

日本の歴史
24　明治維新　小学館 ※
25　自由民権　同 ※

中華人民共和国分省地図集　地図出版社

大林太良編
日本古代文化探究　隼人　火　家　船　社会思想社 ※

森浩一編　同　鉄　馬　墓地　同 ※

上田正昭　同　文学　風土　同 ※

上山春平他
日本史探訪　別巻　古代編 1　角川書店 ※

岳本清張他
同　同　同　2　同

和歌森太郎他
同　同　同　3　同

飯塚浩二著作集 7
人文地理学と歴史　平　凡　社

京都大学文学部国史研究室編
改訂増補　日本史辞典　東京創元社 ※

江戸時代図誌
3　大阪　筑摩書房 ※
11　中山道二　同 ※
14　東海道一　同 ※

3　大阪　同
14　東海道　同

論集日本の歴史
4　鎌倉政権　有精堂 ※

宮川尚志　六朝史研究　宗教編　不楽寺書店

三笠宮崇仁編
生活の世界歴史 1　古代オリエントの生活　河出書房 ※

木村尚三郎
ヨーロッパとの対話　日本経済新聞社 ※

辛島昇他　生活の世界歴史 5　インドの顔　河出書房 ※

芝崎俊衣編
日本史人名辞典　歴史図書社 ※

朝日新聞社編
朝日新聞に見る日本の歩み　安保体制下の国造り 1　昭和26年－27年　朝日新聞社 ※

三田村鳶魚全集 2　お大名の話　武家の生活　武家の婚姻　中央公論社

同　3　御殿女中　御殿女中談考　同
同　6　江戸生活のうらおもて　札差　同
同　7　江戸ッ子　江戸の生活と風俗　同
同　8　足の向く儘，芝，上野と銀座　同
同　10　娯楽の江戸　江戸の食生活　花柳風俗　同
同　11　江戸の女　江戸の花街　同
同　13　捕物の話　与力同心と囚人　浪人と侠客の話　同
同　14　江戸の白浪　泥坊の話　お医者様の話　同
同　16　元禄快挙別録　横から見た赤穂義士　赤穂義士遺聞　同

赤井達郎　江戸時代図誌11　中山道二　筑摩書房 ※

クラヴァル
現代地理学の論理　大　明　堂

鈴木秀夫　風土の構造　同

Rハーツホン
地理学の本質　古今書院

安藤万寿男編
輪中その展開と構造　同

野口武彦　朝日評伝選 7　徳川光圀　朝日新聞社 ※

AJトインビー
歴史の研究 1　序論　経済往来社 ※
同　2　文明の発生　同 ※
同　3　同　同 ※
同　4　同　同 ※
同　5　文明の成長　同 ※
同　6　同　同 ※
同　7　文明の挫折　同 ※
同　8　同　同 ※
同　9　文明の解体　同 ※
同　10　同　同 ※
同　11　同　同 ※
同　12　同　同 ※
同　13　同　同 ※
同　14　世界国家　同 ※
同　15　世界教会　同 ※
同　16　英雄時代　文明の空間に於ける接触　同 ※
同　17　文明の空間に於ける接触　同 ※
同　18　歴史に於ける法則と自由　同 ※
同　19　西欧文明の前途　同 ※
Aダルマス　同　20　歴史家の霊感　同 ※
同　21　再考察　同 ※
同　22　同　同 ※
同　23　同　同 ※
同　24　歴史地図　同 ※
同　25　索引　同 ※

Aダルマス
青春のガロア　数学　革命　決闘　東京図書 ※

テュビュイ
ガロアその真実の生涯　同 ※

読売新聞社編
昭和史の天皇　1－30　読売新聞社 ※

Aダルマス
青春のガロア　数学　革命　決闘　東京図書 ※

社会科学

橋本重治　教育評価法概説　改訂版　金子書房

大林太良編
世界の女性史 1　神話の女　死と生と月と豊穣　評論社 ※

同　同　2　未開社会の女　母権制のなぞ　同 ※
同　同　7　イギリスII　英文学のヒロインたち　同 ※

Gジンメル
現代社会学大系 1　社会分化論　社会学　青木書店 ※

同　2　社会分業論　同 ※

同　3　フォークウエイズ　同 ※

ミュルダール
社会科学と価値判断　竹内書店 ※

三宅忠明　スコットランドの民話　大修館書店

IRバーノン
加工原価見積りの実際　工業調査会 ※

総理府青少年対策本部編
青少年白書　昭和50年版　大蔵省印刷局 ※

教育年鑑刊行委員会編
教育年鑑　昭和51年版　ぎょうせい ※

鈴木竹雄他編
六法全書　昭和51年版　有斐閣 ※

野原春子　職場の悩みにどうこたえる　日刊工業

平井信義他
思春期相談　第二反抗期の子どもたち　有　斐　閣

牧野都治　数学ライブラリー　教養編 5　OR入門　森北出版

奥井復太郎
都市の精神　生活論的分析　日本放送出版協会

坂本昂他　実技講座　教育工学の実践1　教育工学実践の基礎　学習研究社

末武国弘他
同　同　2　OHPの活用とTP製作の実際　同

有光成徳他
同　同　3　VTRの利用技術と応用的活用　同

社会学講座
1　理論社会学　東京大学出版会※
2　社会学理論　同　※
4　農村社会学　同　※
5　都市社会学　同　※
6　産業社会学　同　※
7　政治社会学　同　※
8　経済社会学　同　※
11　知識社会学　同　※
12　社会意識論　同　※
13　現代社会学　同　※
14　社会開発論　同　※
17　数理社会学　同　※
18　歴史と課題　同　※

東洋経済読本シリーズ
1　日本経済読本　東洋経済新報社※
3　金融読本　同　※
4　財政読本　同　※
9　税務読本　同　※
10　証券市場読本　同　※
11　社会保障読本　同　※
12　地方自治読本　同　※
13　社会学読本　同　※
17　日本資源読本　同　※
18　社会心理学読本　同　※
24　日本政治史読本　同　※
25　日本経済地理読本　同　※
26　日本経済史読本　同　※
27　外国為替読本　同　※
30　生命保険読本　同　※
31　簿記読本　同　※
32　文化人類学読本　同　※
33　地方財政読本　同　※
34　損害保険読本　同　※

現代青年心理学講座
1　青年心理学研究の課題と方法　金子書房※
2　青年期の比較文化的考察　同　※
3　青年期の発達的意義　同　※
4　青年の性格形成　同　※
5　現代青年の性意識　同　※
6　現代青年の社会参加　同　※
7　現代青年の生きがい

秀村欣二編
世界の女性史3　古代　美の世界の女たち　評論社　※

野本三吉　裸足の原始人たち　田畑書店※

かこさとし
遊びの四季　ふるさとの伝承遊戯考　とやこめてい出版※

現代人のための古典シリーズ
1　甲陽軍鑑　徳間書店　※
10　戦争論　同　※
20　孫子　兵法　同　※

広島大学原爆死没者慰霊行事委員会
生死の火　広島大学原爆死没者慰霊行事委員会

自然科学

竹内　啓　確率分布と統計解析　日本規格協会

芝祐順　行動科学における相関分析法　第2版　東京大学出版会

MGケンドール
サンエンスライブラリ統計学4　多変量解析の基礎　サイエンス社

笠原晧司　教学リーブル1　新微分方程式対話　現代数学社※

半谷高久編
水分学講座9　汚染水質機構　共立出版

ブルーバックス　B－268　英和科学用語辞典　講談社　※

Lインフェルト
同　B－277　アインシュタインの世界　同　※

桜井邦朋　同　B－278　太陽からの風と波　同　※

川井直人　同　B－279　地磁気の謎　同　※

吉田洋一　新数学シリーズ23　ルベール積分入門　培風館

溝畑　茂　岩波全書255　ルベーグ積分　岩波書店

岸　正倫　サイエンスライブラリ現代数学への入門7　ルベーグ積分　サイエンス社

Gデッチュ
実用ラプラス変換　森北出版

小野　周　熱力学　岩波書店

北郷薫他　基礎機械工学全書5　振動学　森北出版

数学ライブラリー27　数学と物理学との交流
倉田令二郎

数学ライブラリー27　数学と物理学との交流　同　※

Eラバン　プログラムによる基礎数学　1－6　共立出版

Jラサール
数理解析とその周辺8　リヤプノフの方法による安定性理論　産業図書

渡辺信三　同　9　確率微分方程式　同

橋本吉郎　最新化学語辞典　三共出版

入江昭二他
工業基礎数学　代数幾何　東京書籍

JCロッタ
乱流　岩波書店

L.Tブライド
新しい化学　生活環境と化学物質　培風館

E.F.Watt　ワット環境科学　理論と実際　東海大学出版会

東京天文台編
理科年表　昭和51年　丸　善

功力金次郎
高等学校　数学1　数研出版

同　高等学校数学2B　同

入江昭二他
工業基礎数学代数幾何　要項と演習　東京書籍

日本分析化学会編
分析化学大系　錯形成反応　丸　善

J.W.Akitt　現代化学シリーズ57　NMR入門　東京化学同人

外島　忍　基礎電気化学　朝倉書店

デラヘイ　電気二重層と電極反応機構　コロナ社

北原文雄他編
界面電気現像　基礎　測定　応用　共立出版

千原秀昭他編
化学英語の活用辞典　化学同人

渡辺敏夫編
新天文学講座14　新版天体の軌道計算　恒星社　※

高野　暁　流体力学　岩波書店

半谷高久編
水文学講座9　汚染水質機構　共立出版

猪間驥一　改訂統計図表の見方書き方使い方　東洋経済新報社

ストラットン
電磁理論　生産技術センター

ゼマンスキー他
基礎熱力学　コロナ社※

佐竹一夫　医学生物学のための有機化
タンパク質　朝倉書店※

宮本敏雄訳編
基礎数学ハンドブック　森北出版

田島弥太郎他
ＮＨＫブックス240　人間の遺伝
日本放送出版※

DaviaRuelle
StatisticalMachanics　Bsnfamin

J.TOaen他
Finite ElementMethodsin Flowqro blems
UAH press

比良二郎他
流体力学の基礎と演習　広川書店※

北野　薫　基礎機械工学全書５　振動学　森北出版※

一色尚次他
新しい機械工学１　わかりやすい熱力学
同　※

早田保実　マトリクスとその応用　同　※

赤堀四郎他編
タンパク質化学１　アミノ酸　ペプチド
共立出版※

安藤銀郎　同　３高次構造　同　※

山口昌哉他
共立講座現代の数学28　数値解析の基礎
同

Ｆジョン　数値解析とその周辺 11　数値解析講義
産業図書

岸　正倫　数学全書７　ポテンシャル論　同

後藤廉平他
共立全書19　物理化学実験法　改訂版
共立出版

藤代亮一編
バーロー物理化学問題の解き方
東京化学同人

キャノンイメージ編集室編
光の700　キャノン

高木貞治　共立全書183 近世数学史談　共立出版※

同　同　184　数学雑談　同　※

広瀬　健　シリーズ新しい応用の数学11　数学的帰納法　教育出版

猪野　博　フーリエ級数　岩波書店

Ｔページ Ｌページ
スカイ＆テレスコープ天文選集１　銀河系の恒星と星雲　白揚社

同　同　２　星の誕生と死　同

平山直道　基礎機械工学全書10　流体力学
森北出版※

銀林　浩　数学リーブル３　ベクトルから固有値問題へ　現代数学社※

藤沢偉作　同　５　現代の統計解析　同　※

山崎圭次郎
同　８　現代微積分　同　※

笠原晧司　現代数学セレクト１　対話　微分積分学
同　※

栗田　稔　同　２　線形数学序説
同　※

リワノワ　リーマンとアインシュタインの世界
東京図書※

Ｈホックシタット
特殊関数　培風館　※

ＥＴベル　数学をつくった人びと　１－３
東京図書※

倉田令二郎
数学ライブラリー27　数学と物理学との交流
森北出版

武藤義夫　同　31　テルソン解析入門
同

E.Catmell　エンジニアのための化学　東京化学同人

洲之内治男
応用解析の基礎５　ルベーグ積分入門
内田老鶴圃新社※

杉山昌平　例題演習数学講座２　偏微分方程式例題演習　森北出版※

宇野利雄他
共立全書　203 ラプラス変換　共立出版※

ノーバートウィーナー
サイバネティックスはいかにして生まれたか　みすず書房※

宮原　繁　科学新興社モノグラフ
１　高化式　科学新興社※

飯尾和義　同　２　不等式　同　※

高橋正明　同　３　ベクトル　同　※

永井勇一　同　４　３角関数　改訂版　同　※

春日正文　同　５　最大と最小　同　※

佐藤　忠　同　６　対数関数　同　※

飯尾和義　同　７　恒等式　同　※
同

石原　繁　同　８　微分方程式　同　※

矢野健太郎
同　９　数学史　同　※

公田　蔵　同　10　写像　同　※

加藤良作　同　11　微分の諸定理　同　※

八木幸治　同　12　融合問題　同　※

高橋正明　同　13　複素数　同　※

中田安正　同　14　軌跡と領域　同　※

清宮俊雄　同　15　幾何学　同　※

茂木　勇　同　16　集合と論理　同　※

佐々木元太郎
同　17　方程式の理論と解法
同　※

藤崎真佐五
同　18　順列と組合せ　同　※

久保孝夫　同　19　数列と級数　同　※

宮原　繁　同　20　整数の問題　同　※

川崎金三郎
同　21　図形と方程式　同　※

三輪辰郎　同　22　積分　同　※

松原　誠　同　23　確率と統計　同　※

春日正文編
同　24　公式集　改訂版　同　※

宮原繁編　同　25　新選数表　同　※

小野正喜　同　26　ベクトルと行列　同　※

淀　繁弘　同　27　線形計画法　同　※

同　同　28　在庫の問題　同　※

久永文男　同　29　電卓と数学　同　※

C.DOmb　Pnase Transitions and criticcal
Pnenomena　Vol 1　Academicpress
同　Vol 2　同

J.DeBor　Studies in statistical Mecnaics
Vol 4　Nortn－Holland
同　Vol 5　同

J.OHinze　Jurbulence Second Edition
McGraw－Hill

AntoninBecvar
Atlas of tne Heavens Atlas Coeli 19500
Prana ※

RienardG. Swan
Tne Tneory of Sneares Cnicago

R. Courant 他
Metnods of Mat-ematicalPnysics Vol 1 - 2 Interscience

H. B. Griffitns
Surfaces Cambridge

G. Pickert ProjektiveEbenen BerlinHeidelberg

MS. Green Proceedings of tneInternationalscool of Pnysics"EnricoFermi" Academicptess

工学・技術

塚本正文 測量計算法 数学編 理工図書

良本正勝編
土木工事施工及び歩掛標準 同

川上栄一 初級応用力学 同

岸本 進 コンクリート材料と配合設計 同

小沢七兵衛他
機械工学大系50 科学機械 コロナ社

小熊正編 機械設計演習 エンジン編 パワー社※
同 クレーン編 同 ※
同 ポンプ編 同 ※
高橋徹編 同 ジャッキ編 同 ※

川上栄一 初級水理学 理工図書

丸山達夫 下水道講座1 下水道計画の策定
鹿島出版会

小川 澤 機械設計システム 森北出版

土木学会土木計画学研究委員会
第1回土木計画シンポジウム 同
同 第4回 同 システムフローとしての土木計画 同
同 第5回 同 土木計画の評価システム 同
同 第6回 同 同 その2 同
同 第7回 同 環境問題と土木計画学 同
同 第8回 同 環境のとらえ方と評価 同
同 第9回 同 代替案評価の理論と実際 同

土木計画学講習会テキスト1
3 - 8 同

日本規格協会編 日本規格協会
JISハンドブック ねじ 1975
日本規格協会

同 機械要素1975 同

福永太郎 同 機械製図マニュアル 同

仙波正荘 同 歯車伝動機構設計のポイント 同

土木学会規格寛教育委員会
1974土木技術フイルムリスト 土木学会

寺尾 満 測定論 岩波書店

門倉敏夫 計量管理技術双書44 論理回路とマイクロプログラミング コロナ社

宇都宮敏男編
半導体回路マニュアル オーム社

石橋俊夫 テレビ送受信とその機器 コロナ社

岡本征四郎他
基礎電気工学 日刊工業

東京都下水道研究会編
下水道管渠施工ハンドブック 山海堂

渡辺隆自他
道路建設講座1 一般道路の計画と設計
同

AIフォーサイス他
コンピュータサイエンス入門1 基礎編
培風館
同 2 応用編 同
同 3 FORTRAN編 同

大西 清 製図学への招待 理工学社

東近秀房 JISによる機械製図 上、下
パワー社

Hラウス ラウス流体工学 工学図書

Leslse Deelle Doelle
建築と環境の音響設計 丸善

宇都宮敏男
半導体回路マニュアル オーム社

水越達雄 土木施工法講座12 電力土木施工法
山海堂

渡辺健他 同 15-1 地下鉄施工法 上 同
同 15-2 同 下 同

高山 昭 同19 トンネル施工法 同

海外研究開発レポート 管内流れに対する数値解
材料技術資料センター

大橋義夫 材料力学 培風館

高田三郎 機械要素の機構学 理工図書

福田太郎他
JIS使い方シリーズ
機械製図マニュアル 日本規格協会

伝田精一 わかる半導体セミナー CQ出版社

田宮潤他 パルス回路の設計マニュアル 丸善

鳥飼国夫 パルス回路の設計 CQ出版社

松本欣二 フォートランプログラミング 朝倉書店

小西重成 新編電気工学講座25 電子応用
コロナ社

小林芳正 建設における地盤振動の影響と防止
鹿島出版社

池田俊雄 地盤と構造物 同

吉川和広 最新土木工学シリーズ14
最新土木計画学 森北出版

F.E.リチャトJr他
土と基礎の振動 鹿島出版社

武部健一他
道路建設講座2 高速道路の計画と設計
山海堂

吉川博也編
環境アセスメントの基礎手法（2冊）
鹿島出版会

鵜飼信成他
人間と都市環境2 大都市周辺部 同

ギャラガー
有限要素解析の基礎 丸善 ※

土質工学会編
土質基礎工学ライブラリー11 土留め構造物の設計法 土質工学会

岩の工学的性質と設計施工への応用
同 ※
橋1974 - 1975 土木学会※

小西一郎編
鋼橋 設計編 1 - 2 丸善 ※

W.J.Megregor Tegart
金属の力学的性質その転位的アプローチ
同

小郷 寛 電子回路演習 1 - 2 共立出版

新編二級ボイラ技士試験問題解答300題
オーム社

国家試験指導研究会編
ボイラー技士 永岡書店

江草鹿男也
二級ボイラ技士受験読本 オーム社

広田一寿　一二級ボイラ技士受験ポケットブック　同

八十島義之助編
現代土木工学3　土木総合計画論（2冊）　丸善※

松本嘉司　同　5　土木構造設計（4冊）　同※

河野彰編　同　6　土木施工管理（2冊）　同※

油圧技術便覧編集委員会編
油圧技術便覧改訂新版　日刊工業

ネルソン他
技術開発と公共政策　好学社

サルター他
生産性と技術進歩　同

井川治男　電気材料用語辞典　オーム社

社団法人日本電気技術者協会編
自家用電気主任技術者ハンドブック
第4版　同

工藤利夫　初等トランジスタラジオ教科書　同

武田健兼他
水路トンネルの設計施工　山海堂

山口栄輝　弾塑性力学　森北出版

木内信蔵他編
人間と都市環境　3広域圏　鹿島出版会

米谷栄二他編
人間と都市環境　1大都市中心部　同

日本機械学会講演論文集
No760　1－6　日本機械学会

土木学会沈埋トンネル耐震設計研究委員会
沈埋トンネル耐震設計指針(案)　土木学会※

日本建設機械化協会編
橋梁架設工事の手引き　上調査計画編
同　施工編　下　技報堂※

横道英雄　テンソルとオロジー（2冊）　同※

NCヤン　鋼橋新設計法（2冊）　森北出版※

下村　武　電子物性の基礎とその応用　コロナ社

鈴木昭編　トランジスタ動作原理と応用（2冊）
学献社

長谷川浩　石油化学要説　南江堂

渡部与四郎
業務交通体系論　技報堂

WRブランデン
交通システム分析　森北出版

全国測量業協会編
各種道路橋設計計算の手引　オーム社

都　淳一　土木計測　理論と応用　鹿島出版

橋梁ハンドブック編集委員会
設計施工のための橋梁ハンドブック
建設産業調査会

白井健治　ユーザーがつづるコンピュータ化20年
コンピュータエージ社

東京新聞編集局編
あすのエネルギー　中日新聞

福島県生活環境部公害規制課
公害白書　昭和50年版
福島県生活環境部公害規制課

旭硝子工業技術奨励会
旭硝子工業技術奨励会研究報告
VI 26　1975　旭硝子工業技術奨励会

宮川松男他
機械工学基礎講座2　工業力学
朝倉書店※

大江敏博　演習機械振動学　同※

曽根健哉他
内燃機関設計法　同※

西野　宏　ガスタービン　同※

白井英治他
機械工学基礎シリーズ　加工の力学
同※

稲田重男他
切削工学　同※

宮崎孔友　機械工学基礎講座16　計測工学　同※

石原智男他編
油圧工学ハンドブック　同※

日本機械学会編
機械工学便覧　改訂第6版　機械の要素
同　同　材料力学
日本機械学会※

小林忠敬編
省力化生産技術　工業調査会※

桜内雄二郎
プラスチック材料読本　同※

笠原英司　例題演習　水力学　産業図書※

井上安之助他
工業力学演習　同※

同　機構学　機械力学演習　同※

宮川松男他編
材料力学演習　同※

益子正己他編
例題演習　機械設計製図（第2版）　同※

斎藤勇編　圧力容器構造規格による計算例集　同※

田島栄編　新版　表面処理ハンドブック　同※

岩波繁蔵他編
パッキン技術便覧　同※

本田早苗他
荷役機械の設計（増補版）　同※

矢島光吉他
実用機械シリーズ　ポンプ　同※

内田貫一他
同　溶接構造物の実際　同※

松代正三他編
最新機械工学講座　計測工学　同※

福永節夫他
図説機構学　理工学社※

小栗章三　油圧と回路　同※

金沢武他　材料力学演習1　培風館※

御手洗英著他
同　2　同※

河本実他　機械工業大系7　金属の疲れと設計
コロナ社※

黒瀬三郎他
改訂　放電加工　同※

賀勢　晋　機械工作例題演習　同※

バーマキヤン
水撃解析法　同※

ミシュク　計算機利用設計法入門　朝倉書店※

土木学会視聴覚教育委員会編
土木技術フイルムリスト1974　土木学会※

第19回橋梁構造工学研究発表会荷重　外力と構造物の安全性　同※

第21回構造工学シンポジウム構造物の製作施工における諸問題　同※

児玉重春　機械設計の基礎知識と活用　コロナ社

機械工作便覧編集委員会編　同
JISにもとづく機械工作便覧

河本実他　機械工学大系7　金属の疲れと設計
同

阿部秀夫　金属組織学序論　同

上井正志智他
工業技術教育法　その原理と実際
産業図書

藤井哲也　1 伝熱工学の進展　養賢堂

西川兼康他　2　同　同

藤井哲他　3　同　同

岐美格他　4　同　同

北田　稔　リレー回路図の見方　書き方　オーム社

ハロルド・ローリン
バードウエアとソフトウエアにおける並列処理　産業図書

山川出雲　機械工学基礎講座1　機構学　朝倉書店※

CHパロン
入門NC工作機械　共立出版※

谷下市松　工業熱力学　応用編　基礎編　養賢堂　※

内田秀雄編
大学演習　伝熱工学　同　※

谷口修編　同　機械力学　同　※

大学演習材料力学編集会編
大学演習　材料力学　改訂版　同　※

強度設計データーブック編集委員会編
強度設計データーブック　修正版　同　※

鈴木弘英著他
材料力学　上　下　同　※

中島将光　森北電気工学シリーズ3　マイクロ波工学　森北出版

電気学会通信教育会
電気学会大学講座　電力用　しゃ断器　電気学会

同　電気計測器　同

CWOatley
走査電子顕微鏡　装置編　コロナ社

Robert E Collin
マイクロ波工学　上　下　近代科学社

PBHirsch 他
透過　電子顕微鏡法　コロナ社

小野東樹他
機械工学解説と演習シリーズ3　解説と演習　機械設計製図　同

矢崎銀作他
伝送回路網およびフイルタ　電子通信学会

日本機械学会編
機械用語集　日本機械学会※

金属化工技術研究所編
メッキ技術入門　理工学社※

プレス加工技術研究会編
JISにもとづく板金プレス加工　同　※

歯車数値便覧編集委員会編
実用歯車数値便覧　同　※

伊藤正荘編
JIS使い方シリーズ歯車伝動機構設計のポイント(2冊)　日本規格協会※

渡辺昭俊編
JIS使い方シリーズねじ締付機構設計のポイント　同　※

福永太郎他
JIS使い方シリーズ機械製図マニュアル　同　※

電気学会　電気工学年鑑(昭和48, 49年度版)　オーム社

日本機械学会
伝熱工学資料　改訂第3版　日本機械学会※

同　機械図集　歯車(上巻)　同　※

同　同　ポンプ　同　※

同　同　油圧機器　同　※

同　同　ベルト及びチエーン　同　※

同　同　送風機　圧縮機　同　※

吉賀豊城編
自動制御　朝倉書店※

吉屋昇正他
朝倉機械工学全書12　流体工学　同　※

猪瀬　博　コンピューターサイエンスシリーズ
昭和48, 49年度版　オーム社

中田有男　コンパイラの技法　竹内書店

米国半導体電子工学教育委員会
トランジスタ回路ハンドブック　産業図書

同　トランジスタ論理回路　同

同　基礎トランジスタ回路　同

伊藤保雄　つくるシリーズ1　デイジタル機器製作ガイド　CQ出版社

西村恕彦　JIS情報処理用語解説　共立出版

八十島長之助編
現代土木工学3　土木総合計画論　丸善

松本嘉司編
同　5　土木構造設計　同

河野彰編　同　6　土木施工管理　同

国分正胤　土木材料実験　改訂版　技報堂

竹内淳雄他
測量実務叢書9　河川測量　森北出版

JPホルドン
ブルーバックス　B－276　環境とエネルギー危機　講談社　※

SystemsSimulation for Management ofa Total Water Resource Vol II－A　日本テクニカル研究社

同　VolII B　同
同　同 II C　同
同　同 II D　同
同　同 III　同
同　同 IV　同
同　同 V　同

米国政府文献シリーズ　Finite DifferenceSolutions of Steady Laminar FlowThrough a Pipe Orifice　コロケン技術

土木計画学講習テキスト1　土木学会

CCarmicnacl
KentsMecnanicalEngineers Handbook
WilleyToppan　Willey Toppan

Edwara H Oulsen他
Mecnanics of Materials　同

D Jastrzebski
Nataure and Properties of Engineering Materials　同

National Engineering HandBook (Section 4) Hydrobgy　クリアコム

秋山守男他
自動制御演習　森北出版※

大柴文雄　理論応用　溶接工学　改訂版　同　※

大地羊三　数学ライブラリー38　有限要素とその応用　同　※

黒木剛司郎
基礎機械工学全書1　材料力学　同　※

田村章義　最新機械工学シリーズ3　機械力学　同　※

三浦宏文　基礎機械工学全書4　機械力学同　同　※

小川　潔他最新機械工学シリーズ1　機構学　同　※

篠田種男　基礎機械工学全書6　機構学　同　※

小川　潔　機械設計システム　同　※

加藤喜作　設計製図通論　改訂版　同　※

国清行夫他
最新機械工学シリーズ6　水力学　同 ※

一色尚次他
同　7　伝熱工学
同 ※

岐美格他　同　8　工業熱力学
同 ※

大橋秀雄　応用機械工学全書8　流体機械　同 ※

村上光清他
最新機械工学シリーズ11　流体機械
同 ※

山本勇編　電気工学通論　上　下　同 ※

塩崎義弘他
新しい機構学　共立出版※

真理厚佐　共立全書 136　機械力学演習　同 ※

渡辺　茂　同　144　機構学講義 I　同 ※
同　同　145　同　2　同 ※

村田紘一　機械工学講座28　荷役及び運搬機械
同 ※

阿部博之他
最新機械工学シリーズ12　機械工学のためのコンピュータの応用　森北出版※

杉本礼三　応用力学の基礎　同 ※

窪田雅男他
応用機械工学全書1　機械製作法　同 ※

本内信敏他編
人間と都市環境3　広域圏　鹿島出版

米谷栄二　同　1　大都市中心部　同

小栗幸正　実用機械工学文庫18　初学者のための内燃機関　理工学社

堀野正俊　実用機械工学文庫6　初学者のための原動機　同

菅野玄之助他
内燃機関工学概論　同

設計製図研究会編
新編　機械設計製図法　森北出版

菅原寛他　機械設計トレーニングノート　コロナ社

須藤恭一他
講談社現代の化学シリーズ1　有機工業化学1　油化学　講談社

大西　清　設計計算システム　新技術開発センター

日本国有鉄道建設局　施設局　新幹線建設局　構造物設計事務所編
標準設計計算書　1・3
日本鉄道施設協会

日本国有鉄道建設局　場所打ちグイの設計施工に関する委員会編
場所打ちコンクリートグイの設計施工指針案　同

松原健太郎
新幹線の軌道　改訂追補版　同

日本国有鉄道スラブ軌道研究会編
スラブ軌道の設計施工　同

国鉄広島新幹線工事局編
山陽新幹線　大門・小瀬川間工事誌
同
昭和51年電気学会全国大会講演論文集
1－8　電気学会

福田武雄　構造力学　2冊　生産技術センター※

昭和51年度電子通信学会総合全国大会講演論文集　1－8　電子通信学会

稲田重男他
切削工学　朝倉書店

阿部邦雄　機械工学基礎講座11　塑性加工　同

中野信隆　新編機械工学講座12　改訂金属材料力
上　コロナ社
同　同　13　下　同

野口尚一　新編機械設計製図法　森北出版

機械設計便覧編集委員会編
新版　機械設計便覧　丸善

鈴木春義　改訂　最新溶接工学　コロナ社

青木保雄　改訂　精密測定　1－2　同

倉西正嗣　ハンディブック機械　オーム社

ハイラム E グランド
実用設計図集1　治具取付具1
同　同　2　同　2 大河出版
同　同　4　同　4　同
同

青島賢司他
手仕上作業のコツ基礎作業編　槙書店

同　同　応用作業編　同

RKスプリングボーン
MDシリーズ　切削　研削油剤　その選択と使い方　工業調査会

塩崎義弘他
アークガス　溶接の基礎とその標準作業
コロナ社

駒井武夫　初級技術者のための材料力学演習
培風館

嶋廻信成他編
人間と都市環境2　大都市周辺部
鹿島出版会

片桐承延他
数学とコンピュータシリーズ5　電卓「型プログラミング　電機大出版会

日本機械学会編
機械図集　送風機　圧縮機　日本機械学会

電気学会通信教育会
電気学会大学講座　電気施設管理　改訂
電気学会

福田秀雄　設計のための材料力学　2冊　広川書店※

吉田　光　最新機械工学シリーズ13　生産工学
森北出版※

佐多敏之他
工業材料　同 ※

青木　弘　工業力学　同 ※

伊藤祐光　応用機械工学全書3　機械製作法Ⅲ
同 ※

野口尚一編
材料力学演習1　同 ※

同　材料力学演習　同 ※

Gカレン　都市の景観　鹿島出版会

設楽正雄　燃焼の理論と計算法　オーム社

中村慶一　改訂増補技術者のための統計解析
山海堂

Sスタイン
現代の通信回線理論　森北出版

新版機械工学ポケットブック　オーム社※

新機械工学便覧　理工学社※

技能教育研究会
技能指導　超硬バイトの使い方
工学図書※

宮崎孔友　実践機械工作法　学献社 ※

大西　清　JISによる機械製作図の読み方　描き方
オーム社※

関谷英男　JMブックスシリーズ9　切削油剤と難削加工　ジャパンマシニスト※

片桐重延他
数学とコンピュータシリーズ4　電卓のためのプログラミングの基礎　電機大出版会

佐多敏之他
工業材料　森北出版

マイクロコンピュータアプリケーションマニアル　エレクトロニクスダイジェスト

トランジスタ技術別冊第4号　インターフェースマイクロプロセッサのすべて
CQ出版

土木学会構造工学委員会編
構造力学公式集発刊記念講習会テキスト
土木学会

土木用語辞典編集委員会編
土木用語辞典　技報堂

産　業

田中正武　NHKブックス245 栽培植物の起源
日本放送出版協会※

日本放送協会編
NHK年鑑　昭和50年版　同

国鉄交通システム研究グループ編
新交通システム　日本鉄道施設協会

移村輝二　中心商店街　今古書院

東洋経済読書シリーズ日本経済読本
2　日本産業読本　新報社※
5　日本農業読本　同　※
6　商業実践読本　同　※
8　日本貿易読本　同　※

芸　術

吉田秀和全集
1　モーツアルト.ヴェトーベン
白水社　※
2　主題と変奏　同　※
3　二十世紀の音楽　同　※
4　現代の演奏　同　※
5　指揮者について　同　※
6　ピアニストについて　同　※
7　名芸双選　同　※
8　音楽と旅　同　※
9　音楽展望　同　※
10　エセー　同　※

竹村嘉夫　ブルーバックス　B－279　科学のための写真入門　講談社　※

新修日本絵巻物全集
4　鳥獣戯曲　角川書店※
10　平治物語絵巻　蒙古襲来絵巻　同　※

アルペン競技の祭典　73ワールドカップ苗場大会
ベースボールマガジン社

古沢岩美画集　美術出版社

堀内敬三編
音楽辞典　楽語　音楽之友社※

渡辺淳編　標準音楽辞典　同　※

日黒三雄　同　補遺　同　※

日本の仏画1　国宝　釈迦如来像
学習研究社

現代人のための古典シリーズ
9　山岡鉄舟　剣禅話　徳間書店※
16　増補　役者論語　同　※

名曲解説全集
1～2　交響曲　上　下　音楽之友社※
3～5　管弦楽曲　上　中　下　同　※
6～7　協奏曲　上　下　同　※
8～9　室内楽曲　上　下　同　※
10～12　独奏曲　上　中　下　同　※
13～14　歌劇　上　下　同　※
15～16　声楽曲　上　下　同　※
17　声楽曲　同　※
18　器楽曲　補巻　同　※

朝日評伝選
4　岡倉天心　朝日新聞社※

語　学

大野晋他　岩波古典辞典　岩波書店※

日本辞典刊行会編
日本国語大辞典　19む～ゆそん
小学館
同　20ゆた～ん　同

高梨健吉他
日本の英語教育史　大修館書店

田中正武　NHKブックス26　言語の思想
日本放送出版協会※

横川信義　ジャーナリズム英語　大修館　※

向高勇他　効果的なビジネスレター　同　※

金田一京助
新明解国語辞典　第二版　三省堂　※

河野一郎　翻訳上達法　講談社　※

松本道弘　giveとget発想から学ぶ英語
朝日出版※

安井稔編　新言語学辞典　研究社　※

広岡英雄　歴史的にみた英語の発音と文法
篠崎書林

長所フミ　英語と日本語　発想の表現と比較
研究社　※

長谷川潔　英語がわかる秘訣
国際コミニュケーションズ※

英和中辞典　机上版　旺文社

大野晋　新釈漢文大系66　国語　上　明治書院※

小学館ランダムハウス英和大辞典　パーソナル版　上巻　下巻　小学館

小林祐子　エレック選書　身ぶり言語の日英比較
ELEC出版※

鈴木直治　中国語研究　学習双書12　中国語と漢文
光世館

大隈秀夫　文章の実習
日本エディタースクール出版部

新村出編　広辞苑　第二版　岩波書店

大野晋他編
岩波　古語辞典　同

貝塚茂樹他編
角川　漢和中辞典　角川書店

渡辺昇一　英語学大系13　英語学史　大修館書店

山中貴太　人名地名の語源　同　※

マージン.E.ランディ
アメリカ俗語辞典　研究社　※

国際交流基金編
日本人の発想から英語の表現へ　同

中村保男　中公新書393　楽しむ英語　中央公論※

金口儀明　英語冠詞活用辞典　大修館書店※

村上　健　こんな表現　英語文化をのぞく
YMCA出版※

堀垣　実　日英比較表現論　大修館書店※

R.A.ミラー
ブロック日本語論考　研究社　※

国際交流基金編
日本人の発想から英語の表現へ　同　※

藤井草雄　日本人の翻訳プロセス　早大出版部※

真鍋良一編
ドイツ語の疑問に答える20章　三修社

森澤三郎他編
実用英語ハンドブック　改訂増補版
大修館書店※

星川清孝　新釈漢文大系70　唐宋八大家文読本一　明治書院※

別宮貞徳　翻訳を学ぶ　八潮出版社

文　学

エドガーアラン・ポオ
　ポオ全集1－3　東京創元社

小西甚一　日本の古典3　道　中世の理念　講談社※

日本文学研究資料叢書　平安朝日記Ⅱ　有精堂
　同　古今和歌集　同

富士正晴　日本詩人選27　一休　筑摩書房

L.トリリング
　自我の反逆　作家と思想　泰文堂

　関根慶子教授退官記念　寝覚物語対校　平安文学論集　風間書房

日本古典文学全集
　25　神楽歌　催馬楽　梁塵秘　閑吟集　小学館※

明治文学全集
　89　明治歴史文学集(一)　筑摩書房※

文芸読本　夏目漱石　河出書房※
　三島由紀夫　同※
　太宰治　同※
　芥川龍之助　同※
　ドストエーフスキイ　同※
　折口信夫　同※

岩本修九他
　複合汚染への反証　国際産業出版

有吉佐和子
　複合汚染　上　下　新潮社※

梅原猛　水底の歌　柿本人麿論　上　下　同※

西村滋　雨にも負けて風にも負けて　双葉社※

吉田幸次郎
　読書の学　筑摩書房

鈴木弘　シェリーと英詩の伝統　燃える泉のこころ　北星堂書店

長沢順治　現代英詩人論　同

藤田清次　ジョージ・エリオットの小説　同

岡本成蹊　イギリス近代小説の形成　桐原書店

大沢衛編　20世紀の先駆者トマスハーディ　篠崎書林

チャールズ・シャピロ
　現代イギリスの小説家たち　評論社

ルネッサンス研究所編
　ルネッサンス双書1　英国ルネッサンスと宗教　荒竹出版

日本古典文学全集　小学館※
　1　古事記　上代歌謡　同※
　2　同　萬葉集1　同※
　3　同　同　2　同※
　4　同　同　3　同※
　6　日本霊異記　同※
　7　古今和歌集　同※
　8　竹取物語　伊勢物語　大和物語　平中物語　同※
　9　土佐日記　蜻蛉日記　同※
　11　枕草子　同※
　12～16　源氏物語　1～5　同※
　18　和泉式部日記　紫式部日記　更級日記　讃岐典侍日記　同※
　19　夜の寝覚　同※
　20　大鏡　同※
　21～23　今昔物語集　1～3　同※
　26　新今古和歌集　同※
　27　方丈記　徒然草　正法眼蔵随聞記　歎異抄　同※
　28　宇治拾遺物語　同※
　29～30　平家物語　1～2　同※
　31　義経記　同※
　32　連歌俳諧集　同※
　33～34　謡曲集　1～2　同※
　35　狂言集　同※
　36　御伽草子集　同※
　37　37　仮名草子集　浮世草子集　同※
　38～40　井原西鶴集　1～3　同※
　41　松尾芭蕉集　同※
　42　近代俳句俳文集　同※
　43　近松門左衛門集1　同※
　45　浄瑠璃集　同※
　46　黄表紙　川柳　狂歌　同※
　47　洒落本　滑稽本　人情本　同※
　48　英草紙　西山物語　雨月物語　春雨物語　同※
　49　東海道中　膝栗毛　同※
　50　歌論集　同※
　51　連歌論集　能楽論集　俳論集　同※

中野好夫　蘆花徳富　健次郎　1部～3部　筑摩書房※

小松真一　虜人日記　同※

福島県教育庁文化課
県文学集　第23集　昭和50年度版　福島県教育庁文化課

中村真一郎
　この百年の小説　新潮社※

ダンテ　神曲地獄篇　神曲煉獄篇　集英社※

朝澤旭吉　和訳詩集　懐風藻　学燈社

石田穣二　鑑賞日本古典文学8　枕草子　角川書店※

佐藤謙三編
　同　13　今昔物語集　宇治拾遺物語　同※

山岸徳平　同　14　大鏡　増鏡　同※

　バルザック全集21　東京創元社※

　筑摩世界文学大系50　コンラッド　筑摩書房※

　鏡花全集　27～28　岩波書店※

西郷信綱　日本詩人選　22　梁塵秘抄　筑摩書房

　岩波講座　文学1　文学表現とはどのような行為か　岩波書店※

　同　同　2　創造と想像力　同※

　同　同　5　表現の方法　2世界の文学　下　同※

中国古典文学大系
　1　書経　易経（抄）　平凡社※
　2　春秋左氏伝　同※
　3　論語　孟子　荀子　礼記（抄）同※
　4　老子　荘子　列子　子系子　呉子　同※
　5　韓非子　墨子　同※
　6　淮南子　説苑（抄）　同※
　7　戦国策　国語　論衡　同※
　8　抱朴子　列仙伝　神仙伝　同※
　9　世説新語　顔氏家訓　同※
　10　史記　上　同※
　11　同　中　同※
　12　同　下　同※
　13　漢書　後漢書　三国志列伝選　同※
　14　資治通鑑選　同※
　15　詩経　楚辞　同※
　16　漢　魏　六朝詩集　同※
　17　唐代詩集　上　同※
　18　同　下　同※
　19　宋　元　明　清詩集　同※
　20　宋代詩集　同※
　21　洛陽伽藍記　水経注（抄）　同※
　22　大唐西域記　同※
　23　漢　魏　六朝　唐　宋散文選　同※
　24　六朝　唐　宋小説選　同※
　25　宋　元　明通俗　小説選　同※
　26　三国志演義　上　同※
　27　同　下　同※
　28　水滸伝　上　同※
　29　同　中　同※
　30　同　下　同※
　31　西遊記　上　同※
　32　同　下　同※
　33　金瓶梅　上　同※
　34　同　中　同※

35 同　下　同 ※
36 平妖伝　同 ※
37 今古奇観 上　同 ※
38 同　下 續紅記　同 ※
39 剪燈新話 業隆比事 余話 西湖佳話　同 ※
40 聊斎志異 上　同 ※
41 同　下　同 ※
42 閱微草堂筆記 子不語　同 ※
43 儒林外史　同 ※
44 紅楼夢 上　同 ※
45 同　中　同 ※
46 同　下　同 ※
47 児女英雄伝　同 ※
48 三俠五義　同 ※
49 海上花列伝　同 ※
50 官場現形記 上　同 ※
51 同　下 続集 老殘遊記　同 ※
52 戯曲集 上　同 ※
53 同　下　同 ※
54 文学芸術論集　同 ※
55 近世随筆集　同 ※
56 記録文学集　同 ※
57 明末清初政治評論集　同 ※
58 清末民国初政治評論集　同 ※
59 歴代笑話選　同 ※
60 伝教文学集　同 ※

幸田 文 『　』　新潮社 ※

成田成寿 批評の視点　荒竹出版

バルザック全集26　東京創元社※

ツヴァイク全集
1 アモク　みすず書房※
2 女の二十四時間　同 ※
3 目に見えないコレクション　同 ※
4 レゲンデ　同 ※
5 人類の星の時間　同 ※
6 心の葛藤　同 ※
8 三人巨匠　同 ※
9 デーモンとの闘争　同 ※
10 三人の自伝作家　同 ※
11 ジョセフ・フーシエ　同 ※
12 精神による治療　同 ※
13 マリー・アントワネット　同 ※
15 エラスムスの勝利と悲劇　同 ※
16 マゼラン　同 ※
17 権力とたたかう良心　同 ※
18 メリー・スチュアート　同 ※
19 昨日の世界 1　同 ※
20 同　2　同 ※
21 時代と世界　同 ※

秋庭太郎 永井荷風伝　春陽堂 ※

堺屋太一 油断　日本経済新聞社※

小川昭一編
中国の名詩鑑賞 7 晩唐　明治書院※

福本雅一編
同　9 元 明詩　同 ※

大曽 孝 万葉のいぶき　PHP ※

大原高枝 優礼門院右京大夫　講談社 ※

講座比較文学
1 世界の中の日本文学　東京大学出版会※
2 日本文学における近代　同 ※
3 近代日本の思想と芸術 I　同 ※
4 同　II　同 ※
5 西洋の衝撃と日本　同 ※
6 東西文明圏と文学　同 ※
7 西洋文学の諸相　同 ※
8 比較文学の理論　同 ※

世界の詩集
1 ゲーテ詩集　角川書店※
2 ボードレール詩集　同 ※
3 ハイネ詩集　同 ※
4 バイロン詩集　同 ※
5 シュトルム詩集　同 ※
6 ランボー詩集　同 ※
7 リケル詩集　同 ※
8 ヴェルレーヌ詩集　同 ※
9 ヘッセ詩集　同 ※
10 ホイットマン詩集　同 ※
11 世界恋愛名詩集　同 ※
12 世界女流名詩集　同 ※
13 アラゴン詩集　同 ※
14 コクトー詩集　同 ※
15 エリオット詩集　同 ※
16 マヤコフスキー詩集　同 ※
17 カロッサ詩集　同 ※
18 パステルナーク詩集　同 ※
19 ロルカ詩集　同 ※
20 ネルーダ詩集　同 ※

日本の詩集
1 島崎藤村詩集　同 ※
2 石川啄木詩集　同 ※
3 北原白秋詩集　同 ※
4 高村光太郎詩集　同 ※
5 萩原朔太郎詩集　同 ※
6 宮生犀星詩集　同 ※
7 佐藤春夫詩集　同 ※
8 宮沢賢治詩集　同 ※
9 三好達治詩集　同 ※
10 中原中也詩集　同 ※
11 立原道造詩集　同 ※
12 武者小路実篤詩集　同 ※
13 丸山薫詩集　同 ※
14 八木重吉詩集　同 ※
15 伊東静雄詩集　同 ※
16 織田三郎詩集　同 ※
17 谷川俊太郎詩集　同 ※
18 清岡卓行詩集　同 ※
19 寺山修司詩集　同 ※
20 新川和江詩集　同 ※

水上 勉 一休　中央公論社※

お知らせと編集後記

現代の若者の「読書離れ」の傾向が話題になって久しいが，本校図書館の利用者数が，わずかづつとはいえ増加しているのは心強い。とくに「工学・技術」の分野に，その傾向が顕著であって，工業高等専門学校の面目を保っているといえよう。（7頁の統計参照）

さて，今年度の朗報を2・3お知らせすると……

第1に，開館時間の1時間延長である。学生の利用しやすい昼休みや，午後5時以降は閉館という呆（あき）れた大学図書館もあると聞いているが，高専(生)はそんな怠け者大学（生）の真似をすることなく，真剣に勉学に励んで欲しいものである。

第2に，電子リコピーの増設である。従来からある電子リコピーでは，需要に応じきれないので，もう1台増設したわけであるが，それでも2学期3学期になると行列ができるものと想像される。何でもかでも「電子リコピー」を利用するのでなく，割合すいている「乾式リコピー」も活用して欲しいと思っている。

第3に，カセット・テープの高速転写器が昨年度備付けられたことは「お知らせ」ずみであるが，転写したテープのモニター用，および現在計画中のカセット・テープ・ライブラリーの聴取用として，新しくカセット・テレコおよびヘッド・セット一式が購入された。将来は，2セット，3セットと増設してブース型式で聴取できるように整備していきたいと思っている。

最後に，閲覧室から書庫へ降りる階段の痛みが激しいのと，騒音(足音)防止のため（ズック靴なら騒音は出ない筈であるが，近頃は下履か上履か判らない代物を履いている学生が多くなったのが，階段の痛みおよび騒音の原因ではないだろうか），さしあたり階段の部分だけジュータン（カーペット）を敷くことになった。静かに読書・勉強する場所と，激しく運動する場所とは，ハッキリ区別し行動してもらいたいものである。

以上，お知らせやら，苦情やら，要望やらを並べたが，皆に愛され，利用される図書館を目指して，更に頑張りたいと思っている。（芋川）